

美 いつまでも若々しく！ のヒミツをおしえます

第3回

たるんだ下まぶた

「あれ、目の下にこんな影が？」。今回は顔の印象を大きく変える「下まぶたのたるみ」の解消についてご紹介。『よだ形成外科クリニック』は最新美容医療で、“自分をもっと好きになる”サポートをいたします。



院長 依田拓之

7年間の東京警察病院形成外科勤務を経て平成15年に日本形成外科学会認定専門医の資格を取得。美容外科クリニックで7年間院長を務めた後、平成22年によだ形成外科クリニックを開業。日本形成外科学会 (JSPRS)・日本美容外科学会 (JSAPS) 正会員

まぶたのたるみ、 どんなケアが必要？

目の下に色濃く現れたクマ。「寝不足かな？」と思っていいたら、実はたるみが作った影だった。「目の下のたるみ」は、老け見えするだけではなく疲れた印象も加わり、女性としては歓迎できない変化。しかしこれも治療で解消することができんです。

下まぶたのたるみは、加齢により^{※1}眼窩^{がんか}骨周辺のポリウムが減ることで、下まぶたの脂肪を包む眼窩^{がんか}隔膜が伸び、垂れ下がることになります。段階によって治療法は大きく3つに分かれます。軽いシワレベルであれば、シワの下にヒアルロン酸やペビーコラーゲン、PRP、ボトックスを注入することで解消できます。PRPとは近年、野球選手の怪我治療で知られるようになった再生医療のこと。美容形成外科では、自分の血液から抽出した多血小板血漿を皮膚に注入し、肌の若返りを期待します。次に皮下組織の軽いポリウム不足であれば、皮膚深部に注入するタイプのヒアルロン酸か、再生医療PRPでポリウムをプラスする治療が

自信が持てる目元への扉

マツチします。ちなみにPRPは先のPRFに成長因子を加えたもので、自分の脂肪組織を増殖するもの。ヒアルロン酸は異物を入れる治療になりますが、のちに溶かすこともできるため、「リセット」が効きます。PRPは自分の組織を使う安心感がある一方で、リセットが効きません。
^{※1}眼窩とは、頭蓋骨が凹んで眼球が収まっている部分全体を眼窩という

そしてたるみが大きい場合は「手術」という選択肢もあります。眼窩^{がんか}隔膜を固定し下まぶたのラインをなめらかにします。皮膚と眼輪筋を引っ張って固定するため形状を長く保つことができるのもポイント。局所麻酔手術で、抜糸まで7日程度、お化粧は10日後ぐらいからできるようになります。いずれも状態と患者さまの意向を鑑み、治療方針を決めることとなります。目の周りをすっきりさせ、以前の快活な印象を取り戻しましょう。



写真は、ハムラ法の手術前と手術後5ヵ月の様子。ハムラ法は、皮膚と眼輪筋に緊張をかけて固定するので下まぶたの形態を修正して長い間保つことができる※効果には個人差があります

- ヒアルロン酸注入 ジュビダーム^{ゴリユーム} VOLUMA XC (麻酔入り1ml) … 8万円 (税抜)
- 再生医療 PRF (2cc) … 10万円 (税抜)
- 手術療法 ハムラ法 (両側) … 28万円 (税抜)

他メニューはホームページをご覧ください。



プライバシーが保てるように待合の個室も完備。安心して来院できる環境だ。



院長と副院長の滝澤宏明さん。丁寧なカウンセリングと施術を行い、悩める女性たちのサポートをする。



よだ形成外科クリニック

形成外科・美容外科・美容皮膚科 YODA APS CLINIC



仙台市青葉区花京院 1-1-6 Ever-i 仙台駅前 2F ☎022-266-1120 (完全予約制)

診療科目 / 形成外科・美容外科・美容皮膚科

受付時間 (土日診療) / ● 9:30~12:30, 14:00~18:30 ● 土・日曜9:30~17:30 休診日 / 第1・3・5日曜、祝日